

那珂市おもてなし 観光ボランティアガイドマニュアル2

観光資源・自然・歴史・伝統・文化財・大切に



県指定文化財鈴木家広縁



市指定文化財曲がり屋台所

観光ボランティアガイド那珂

(1) はじめに

この度、昨年に引き続き、「那珂市おもてなし、観光ボランティアガイドマニュアル2」が完成いたしました。

昨年はどなたにも、観光スポットが理解できるように、観光かるたの内容を織り込み作成いたしました。また、かるたも600部作成し、小学校や市内の老人クラブ、学童保育所等に配布し、かるた会が行われています。

読み札の裏面の説明書が好評で「観光スポットが分かり易い」「観光スポットがこんなにあったの」等の意見を承っています。「那珂市おもてなし2観光ボランティアガイドマニュアル」は、市内の小学生の市指定文化財の「曲がり屋」見学契機として、那珂市の江戸時代の文化と暮らしをテーマにして、小冊子を作成してはと意見が出て、執筆に至ったものです。

茨城県のおもてなし講座の補助資料ですので、那珂市を広域的に取り上げておりませんが観光ガイドの一役を担えれるならば幸いです。

観光スポットの知識をより一層身につけ、スマイルを絶やさず、茨城県のおもてなし条例の、おもてなしの心をもって、観光客に接しましょう。

2017年9月

観光ボランティアガイド那珂
会長 小田部一彦

目 次

江戸時代の那珂地方

- (1) はじめに・目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 暮らしと文化・・・米作・農民と税・行政職・・・ 2
- (3) 額田の五文化人・・・原好詛軒・中島五峰・他・・・ 3~4
- (4) 年中行事・・・正月から大晦日まで・・・・・・・・ 5~8
- (5) 古民家・・・曲がり屋・鈴木家住宅・・・・・・・・ 9~10
- (6) 神社&祭り・・・大助祭り・額田祭り・・・・・・・・ 11~14
- (7) 話のタネ・・・・・・・・棚倉街道・寺の経文瓦他・ 15~17
- (8) 那珂市観光かるた・・・・・・・・・・・・・・・・ 18~24
- (8) 編集を終えて・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

（２）暮らしと文化

1.米作

私たちの暮らしは昔から、稲作に関わってきました。春から夏にかけて、年間行事には稲作が大きく関わり、お正月の餅に始まり、田植え時期には、お田植え祭や、田植え歌、早苗ぶりと沢山の行事や風習があり、稲刈が終え、豊作を祝う秋祭りになります。田植え終わっても、日照りが続くと、雨乞いの行事を行い、神に願い事をしました。今のように、用水路が整備されていない時代では雨が頼みの綱でした。五穀豊穡を願い雨乞いをし、雷が鳴り、雨が降ると雷様に感謝したのです。（雷を稲妻といい、光を稲妻言っていました）。

2.農民と税

江戸時代の水戸藩は御三家の中でも石高が最も少ない藩でした。これまでも年貢で苦しむ農民が多くいました。常陸の国は常道（ひたちみち）といわれる時代から農業が盛んで収穫高は随一といわれた国であった。当時は常陸の国に赴任せず名ばかりの領主であって、朝廷の役職についていたほどでありました。鎌倉時代からの取り追い行事も「ワーホイダ・ワーホイダ、鎌倉さまのワーホイダ」囃し文句にあるように鎌倉さまは北条氏を指し、税の取り立てに来る役人を追い払うと意味の税金取りにかけた「鳥追い行事」あったと伝えられています。水戸藩の生瀬事件も税に絡む抗争であった。江戸時代に入り水戸藩でも、農民が苦しみ逃避する数が増えた。これを防ぐため、十人組等の牽制組織や村八分等で統制を取ったのである。村八分とは交際の十項目として、1、冠婚 2、葬祭 3、祭 4、建築 5、火事 6、病 7、水害 8、旅 9、出産 10、年忌を指し、守らない者は村八分としたが火事と葬祭は欠かせない交際であった。

御三家の中でも背伸びして体裁ををつくろう水戸藩は水戸光圀による大日本史編纂による水戸藩財政の圧迫は、農民にさらなる苦しみを与え、農民の数が減った。いわゆる飛散であった。年貢や十人組の決まりに耐え切れず、国を捨てて、江戸に上がったのである。農民の他国への移住は禁止されていました。苦肉の策として、笠間地方では、宗教を隠れみのかとして難民の保護という観点から越後からの流入を図った。当時の北陸地方は既に飢饉による食べられない農民が多く出て宗教に名を借りた信者の移動という流れになったのであります。

3.行政職

郡奉行の任務は、郷中の取り締まりと、年貢の徴収、田畑工作の奨励、人別改め、山林用水、の管理と多岐にわたっていた。郡奉行のもとで、村政を取りしきったのが庄屋である。庄屋はもとは名主とも呼ばれていた時代もあったが、村の代表者でもありとともに藩政の末端執行者でもあった。以前には奉行の下に代官を置いた時代もあったが経費削減から廃止されていた。庄屋の補助職として、組頭がおり、いくつかの組に村内を分けそれぞれ支配を分担した。他の藩では、5人組の組織が一般的であったともいわれる。

水戸藩では10人組の組織が一般的であったが、5人組みもあったとも言われる。那珂郡では、野々上郷には30の村があり、奉行のもとに統制されていた。

（3）額田の五文化人

1.原好詛軒

寺子屋教育が読み、書き、そろばんを主とした初等教育に対して、一步進んだ私塾があった。私塾で有名なのが、額田の原好詛軒の塾であった。好詛軒は久慈郡白羽村の渡辺家に育ち、邦明とも言った。9歳の時に額田村の原光重の養子になり、号を好詛とிட்ட。幼少の頃より学問を好み太田の立川淳美に師事し、儒学を修めた。淳美は長久保赤水の内人であった。

社会道徳や手毬歌等により、婦道訓の布教を行い、人々に好かれたため善士とも賞された。好詛の日誌に「占春亭日誌」ある、また、豊後の二孝女に共鳴して、帰国への協力もしている。40年間の門弟100人余りと言う。弟子により原好詛軒の墓碑が建てられ引接寺に眠っている。

2.中島五峰（額田三日坊）

額田の地域は棚倉街道にあり、久慈川の川止めもあって、水戸へ行く福島からの商人が立ち寄り、交通の要所でもあった。経済的にも恵まれると同時に文化面でも盛んで俳諧等も普及した土地柄であった。松尾芭蕉の影響もうけ女流俳人も出るところとなった、その中でも名を残したものは額田三日坊である。姓は中島、通称左源太、俳号を五峰と称した。1766年に全国行脚の旅に出た。松島や天の橋立、近江の国まで度に及んだ。

「川千鳥夜すから上がる声ばかり」「芭蕉碑やかれ残りたる石見水」の句がある。

婦人とされる中島素嵐（素蘭）も有名になって毘盧遮那寺に句碑が残されている。又、芭蕉没100年を記念して、有が池湖畔に、芭蕉の句碑がある（額田東郷）



中島素嵐句碑

「朝もやや、散歩道より咲きいそぎ」



松尾芭蕉句碑

「松風や落ち葉が水の音涼し」

3. 絵画の鈴木櫟堂

額田の画人で、額田の庄屋をしていた鈴木家に生まれた。鈴木家七代目の当主で、市十郎と称し、雅号を櫟堂と称し、始め鴻巣村奈治原如清に師事し、後に野州の名人小泉斐に師事し、画技を学んだ。

鈴木市十郎宅は現在も県指定文化財として、鈴木家住宅として管理されています。徳川光圀の養女が初代市十郎に嫁ぐ、又江戸時代紅花長者として財を成した。

4. 長唄の岡安喜代八。

長唄は三味線の音楽の一種である。1700年代に江戸に広まった。額田村出身の岡安喜代八は江戸で有名になった。

喜代八は額田下之町の藤田与衛門の二男として生まれた。名は留次郎、のちに久蔵で、馬子を生業としていた。歌が上手で朝早くから夕方遅くまで、街道並木を歩いて駄馬も勇ませ、聴く人の心を躍動させた。額田の旅籠に「いずみや」に泊まった客が聞き惚れ、将来を見込んで江戸行きを薦め連れて行ったという話が残っている。江戸で岡安家で師事し喜代八を名乗り、彼の美声は江戸の芸能を二分するほどの人気となった。磯部の都都逸と額田の長唄である。

5. 頓智の大谷達才

寛政年間（1788~1801）に現在の那珂市額田で生まれた、大谷達才は通称「たつつあい」と呼ばれていた。たつつあいの名は地元の額田ばかりではなく、水戸藩内でも有名な存在であった。その話す内容は「ほら吹き」と呼ばれていて、うそではないがユーモアあふれる話が多く残されています。

額田の引接寺には「たつつあい」の墓が残されています。

話1、九里這った藤

ある日たつつあいは「家には大きな藤がある。周りは一丈余り（約3尺）もある。それがはこびこって九里四方に伸びて茂っている」と言いました。

それを伝え聞いた人々は、一度はそんな藤を見てみたいものだと、たつつあいの家を訪れたら、そこにはそれらしき藤はなかった。

ただ、栗（九里）の木にからまった小さな藤があっただけでした。おしまい



引接寺本堂



大谷達才の墓

3. 年中行事

1.元旦（1月1日）

正月の風習は地域によりそれぞれの家により異なっている。正月三が日は、一般には餅を食べる。汁粉を食べる家、塩鮭を食べる家と様々である。昔の正月の遊びには、凧揚げ、駒回し、双六、竹馬、羽根つき、かるた、福笑い等子どもの遊びがあった。

2.七草粥（1月7日）

1月7日は七草粥とか七日正月と言い、七草を入れて食べる。七草とは、セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベ、ホトケノザ、スズナ、スズシロです。なぜ食べるのか、正月に食べ過ぎ、銀杏が弱っている胃腸を休めるためのようだ。

3.カラス、カラス（鍬入れ）（1月11日）

1月11日朝、鍬、まんのうを水に浸し、松の枝、米、餅、胡麻等を半紙にくるんだのをもって、松を立てて供物を供える。「カラス、カラス」と大声でカラスを呼び込んでカラスの食べることによって豊作を占う。また、田畑の土を起す、田畑の作業の始まりを示す。

4.小正月（繭玉とワーホイ）（1月15日）

小正月には、繭玉作り、子どもたちは鳥追い小屋を作り、小遣い銭集めに部落の家を回った。お好みの焼き田楽を作り、各家に配って歩いた。これを食べると福が来ると言われている。「今夜はどこの鳥追いだ（ワーホイ）だ。鎌倉さまの鳥追いだ。あわんどりもホイホイホイ、きびんどりもホイホイホイ。今夜はどこのホイホイだ。さらば行ってすけましょう。すけましょう。この歌のしめに、結婚した家には、「おめでたい、おめでたい」花嫁をもらっておめでとう。初孫生まれた家に行き「初孫生まれておめでたい」とはやしたてたという。

現在ワーホイ祭りは、那珂市内の芳野地区で復活し毎年行われている。餅やお汁粉や沢山のご馳走が用意され、竹で組んだワーホイ小屋が燃やされるという。

5.節分祭（2月3日）

一般的には歳取りと言い、大豆を煎って夜豆撒きする。「鬼は外、福は内」大声を上げてうちの中に撒いた。歳の数だけ豆を食べたという。

ヒイラギに豆腐を刺したり大豆殻にイワシの頭や尾を刺して家の出入り口に差し置き、魔除けとし、歳男は寺や神社で豆撒きをします。

6.襟掛け餅（2月8日）

子どもの成長を祝い、除災を祈る行事です。

紅白の餅をこぶし大に丸めて麻のひもに通して、7歳以下の子供の襟にかけ神社参りや近所を回ります。

餅の数を、数え年より一つ多くするのは、来年まで無病息災で成長するようという祈りが込められています。

7.桃の節句（雛祭り）（3月3日）

3月3日はひな祭り、女の子の居る家では、雛壇を造って祝った。

源氏物語や枕草子にも、雛遊びが書かれている、古くからの行事である。

雛祭りが各家庭に普及したのは、華やかな元禄時代と言われている。

雛飾りは一週間から十日前に飾られる、初節句を迎えた家での一大行事である。

那珂市においても、現在つるし雛の会が、曲がり屋、市役所、歴史民俗資料館、中央公民館、総合センターらぼーるに飾り一大イベントになっている。

8、お彼岸（春分の日3月21日）

春分の日を中心に前後3日間合わせて7日間をお彼岸という。お墓詣りして、仏前にぼた餅を供える。

9、端午の節句（5月5日）

菖蒲が咲く時期で、菖蒲の節句とも言われている。男の子の居る家では、鯉のぼりを建てる。菖蒲は邪気を払うと意味から、屋根の上にヨモギと菖蒲の葉を垂らした風習があった。防火除けや家内安全を願うものであった。軒に菖蒲を挿す習慣は平安時代の中期頃から宮中で行われ、民間に伝わったという。節句の食べ物に、柏餅やちまき餅などがあります。

10.釜の蓋（8月1日）

8月1日は釜の蓋と言い閻魔様が、お釜の蓋をたたいて、亡くなった人の盆帰り8月1日の出発の合図をする。

お盆にはあの世からご先祖様が帰ってきます。あの世からこの世の道のりは遠く、8月1日に出発しなければ間に合いませんのでご先祖様は、8月1日、釜の蓋が開くのを待ちかねたように、飛び出しこの世への道に向かいます。

11.お盆（8月13、14、15、16日）

祖先の霊を迎えて慰める行事です。祖先の霊を家に迎え、供物を供えて供養する風習です。

土地によって違いますが、13日の夕方に戸口で「おがら」焚いて迎え火で魂お迎えし、16日に送り火を焚いてお帰りいただくのが一般的です。

※盆は3日、腐れ彼岸は7日ある。丁稚奉公を苦言した皮肉である。

盆は田舎に帰してもらえるが、たった3日しか休めないと言ったのである。

お盆様と言い、挨拶もお盆を迎えておめでとうございます。静かなお盆でございます。2通りの挨拶がある、後者は初盆の挨拶である。

初盆で福島県に行った際、盆飾りが竹笹を左右に立てつないで、鬼火にはおづきがつりさげられていた。死者の魂が灯を、頼って戻ってくるといふ鬼火（ほおずき）が灯だそうだ・・・お盆の迎は各地の風習によって違いがあります。

12.お彼岸（秋分日9月23日）

秋分の日を中心に前後3日合わせて7日間をお彼岸という言う。お墓参りして、仏前におはぎを供える。

13.秋の名月（8月15日、9月13日）

陰暦の8月の十五夜、9月の十三夜の名月に、夏の作物の収穫もほとんど終わって、稲の豊作を祈る祭りを行なったことが始まりとされています。その年の収穫物を月に供える風習が各地に残っています。現在のように団子を供えるのも丸いことから、風習が変形したと考えられます。団子の数は、十五夜は15個、十三夜は13個供え、すすきと団子、秋の収穫物を供えました。

14.恵比寿講（10月20日）

商売繁盛の神様である恵比寿神を祀る行事である。七福神の一の神である、恵比寿様は商売繁盛、漁村では豊漁、農村では五穀豊穡や、竈、田の神として、古くから信仰の対象とされていた。

※10月20日の夜、そばを打ち恵比寿大黒様の掛け軸と掛け膳を供える。供え物として必ず、そば、お頭つきの魚、お金を供え、商売繁盛、豊漁、五穀豊穡を願ったという。

15.七、五、三（11月15日）

七、五、三歳の節目として、子どもが無事育ったことを祝い、今後とも健やかな成長を神社、氏神様に祈願する年中行事です。3歳女、5歳男、7歳女が行なう。

16.正月用餅搗き（12月26日、12月28日）

餅搗きは、卯の日と九の日を避けて、26日や28日に撞き、28日が卯の日の場合は30日に送る。鏡餅は三つ重ね、荒神様、大黒様は二つ重ねとなる。

29日は「九餅」と言われ避けられている。餅搗きは一家総出で行う一大行事であった。

17.大晦日（12月31日）

一年の最後の日。年越しそばを打ち、そばを食べる。昔は石うすで引き「晦日そば」と言って食べた。囲炉裏を囲んで爺様が孫たちに話をした、お正月は、山越え、海超え、田畑越えやってくると言っていた。

新年を迎える準備の最後は松と竹と梅で門松を作り門の両端に立てる。

松竹梅です。新年を迎える準備完了。

お寺では除夜の鐘を打つ。108回打たれるが人は108個の煩惱があることにちなんでいるという。

額田地区では、阿弥陀寺や上宮寺では現在も行われている。

年中行事主写真



1.お正月鏡餅



初詣



2.七草粥



4.小正月ワーホイ



繭玉飾り



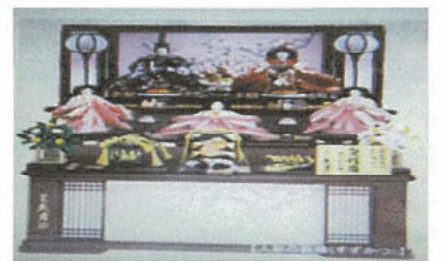
5.節分祭



節分祭



6.ひな祭り



ひな祭り



7.端午の節句



端午の節句



11.お盆迎え火



盆膳

盆膳



13.中秋の名月



名月



15.七五三



17.大晦日年越しそば



除夜の鐘

市指定文化財・那珂の「曲がり屋」



市指定文化財・曲がり屋



棟飾り水



棟飾り龍



棟飾り寿



板の間



和室



台所

那珂市菅谷にあり、文久2年（1862）那珂市戸崎に建てられた那珂市の最後の曲がり屋ということで、保存することになり、平成10年に一の関公園内に移築が完了し復元された。

曲がり屋とは、土間及び厩が突出し、鉤の手に曲がっているので「曲がり屋」呼ばれています。

曲がり屋の建て方には諸説がありますが、冬の寒さを避けるため、労働力である馬や牛を大切にしたい、棟数による税金を避けるためとか諸説あります。

外部は、屋根は、カヤ葺き、棟飾り、煙出し、化粧軒、正面兜造りです。棟飾りには、火伏せ、厄除けの意味があり、東に水、西に寿、南に龍の文字が記されています。

内部は、座敷、囲炉裏、土間、台所、板の間、中二階、厩、竈などがあります。天井は、丸太の梁がみられます。

現在は各種のイベントの場所として、ひな祭り、月見宴、コマーシャルの撮影場所、小学生の歴史の勉強の場として利用されています。

県指定文化財・水戸黄門ゆかりの「鈴木家住宅」



鈴木家住宅・・県指定文化財



ベニバナ畑

鈴木家は那珂市額田南郷にあります。

鈴木家は水戸藩時代庄屋を務め、徳川光圀の養女万姫を迎えたほどの旧家であり、光圀が西山荘への往復途中立ち寄り、その宿泊にも用いたとされる書院があります。

書院は母屋などとは別に、離れ座敷として建っていて、貞享4年光圀が宿泊するために建てられてと伝えられています。光圀の養女万姫の墓が阿弥陀寺あります。最近鈴木家の畑では江戸時代に盛んに栽培されたベニバナの花が7月～8月上旬には見られます。



板欄間模様・・流水に浮かぶ花



※市指定天然記念物モチノキ（樹齢300年）

水戸藩二代藩主徳川光圀が移植したとも言われる2本のモチノキである。前庭の築山に植えられ他の樹木とともに書院の庭を構成しています。

菅谷鹿島神社&大助まつり



菅谷鹿島神社拝殿



菅谷鹿島神社



市指定文化財三十六歌仙

菅谷鹿島神社は菅谷にあり、元は大同年間（810年頃）今の上宿宮の池畔に建立された。天喜年間（1050年頃）、源頼家が東北征伐（前9年の役）の時、戦勝祈願し、帰りにお礼として鹿島神社を茅で葺き新しく建立した。

永保年間（1080年頃）、源頼家が後3年の役の帰りに八幡神社に戦勝を報告した。現在の両宮という地名は今でも使われている。

元禄9年（1696）徳川光圀が、八幡神社を廃止し鹿島明神のみとした。安政3年（1856）徳川斉昭が鹿島明神と下宿の船寄明神廃止し、新たに社殿を造り、安政4年（1857）に徳川斉昭が鹿島神宮から、神霊を迎え現在地に鎮座させた。市指定文化財・三十六歌仙

大助まつり（菅谷の提灯祭）

菅谷鹿島神社氏子を中心とした祭りです。9町内から200~300個の提灯を付けた提灯山車が9台参加し、菅谷の提灯祭りとして近郷近在の人々に、親しまれています。150年以上続く伝統ある祭りです。祭は3年に一度行われます。

大助まつり (ちょうちんまつり)



堀之内町



東組町



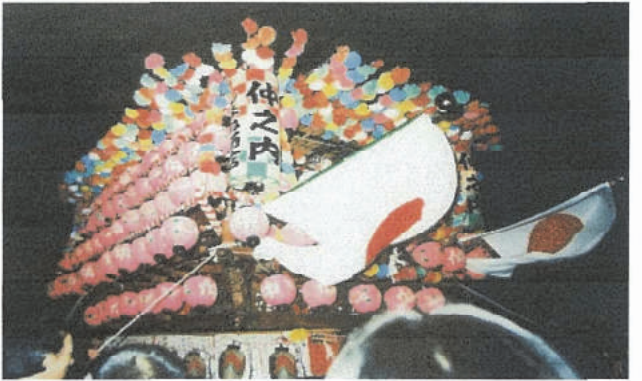
下之町



鷺内町



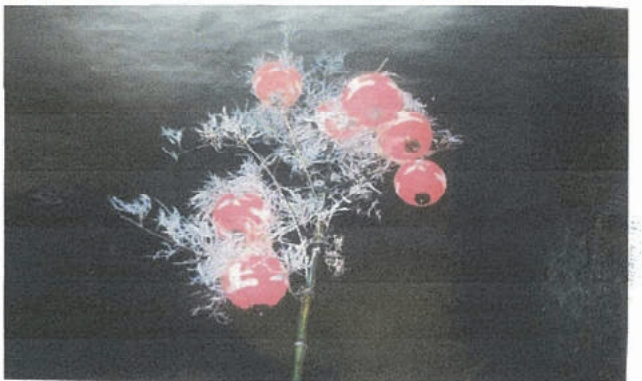
中宿町



仲之内町



神事火伏



七つぼんぼり

鹿嶋八幡神社(額田神社)彫刻華麗な山車額田祭り



鹿嶋八幡神社(額田神社)拝殿



本殿・八幡神社・鹿嶋神社奉られている



縁結びの神淡島神社



3年に一度の額田祭り

たけみかずちのみこと ほんだわけのみこと

額田神社は那珂市額田北郷にあり、祭神は武甕槌命、菅田別命である。境内には23社の末社があり主なものは淡島神社、稻荷神社、駒形神社、金毘羅神社、別雷皇大神、などがあります。神社の沿革はかつて額田宿には奥州に向かって棚倉街道が通っていた。東側に鹿嶋神社、西側に八幡神社の二社が祀られていました。

鹿嶋神社は大同年間(806~809)に創立されていた。八幡神社は康平6年(1063)源頼義が奥州での前9年の役を平定し帰京の途中、額田村西馬場の地に勝利を感謝し創建した、永保元年(1018)には源義家が社殿や参道を修造した。元禄7年(1694)水戸藩主徳川光圀は街道西にあった、八幡神社を鹿嶋神社に合祀、鹿嶋・八幡神社として社殿を改築し奉幣神器その他の神宝などを奉納し、額田神社と命名し領内巡視の際には参拝していきました。そのご、茨城県より村社と定められ名称も額田鹿嶋八幡神社と改められ、県の特別神社にも指定されています。

文化財は光圀奉納の神供器、神鏡、木製狛犬一対、陶製狛犬一基あり、境内には光圀お手植えの榊のご神木あります。また、参道には樹齢600年とも言われる山さくらがあります神社の扁額「額田神宮」は水戸藩学会沢正志斎の筆です。淡島神社は「裁縫の神」「安産の神」「縁結びの神」として信仰され、特に2月8日の針供養は近郷近在の男女の参詣で賑わったそうです。

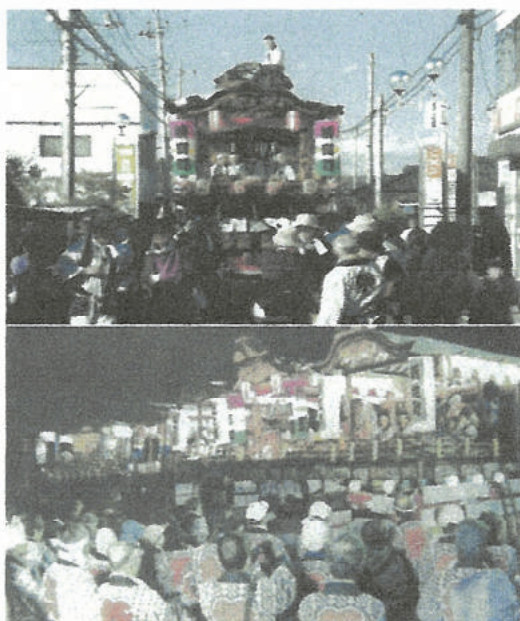
本殿正面の彫刻は明治33年(1900)常陸後藤流の彫師後藤保之介の作品です。

額田神社には3年に一度行われる各地区の山車が勢揃いする額田祭りが広く知られています。

額田まつり & 彫刻山車



古 宿 町



まつり風景



本 後 町



上 之 町



新 地 町



柄 目 町



まつり風景



まつり風景



まつり風景

観光ボランティアガイド那珂作成2013

(7) 話のタネ

1. 額田の棚倉街道

江戸時代、水戸城下から太田を経て陸奥の国棚倉城下に至る棚倉街道の要衝として栄えた額田の宿であった。

棚倉街道には、上町通りと下町通りの2通りの街道がある。上町と下町が一緒になるのが坂下である。本街道は下町通りであり、水戸から、枝川、武田、田彦を回り太田を目指す。途中寄居、堤、横堀を経由して額田に至る。上町通りは水戸から那珂川沿えを上がり、青柳を渡り、五台、菅谷、杉を通り額田に至ったのである。

横堀回りは本街道ゆえに地蔵尊や馬力神等が街道に今でも残っている。

額田に至っては有が池に遮られ、一方は向山から米崎へ、一方は鱗勝院西側へ迂回し、久慈川を越えた。下町街道には平将門の碑や横堀地蔵尊等が注目される。

当時埴の天領の米は、馬で陸路を枝川まで運ばれ、枝川からは那珂川の水運を利用して、那珂湊経由して、江戸に運ばれた。



額田方面から幸久橋太田方面望む



額田坂下から太田方面望む

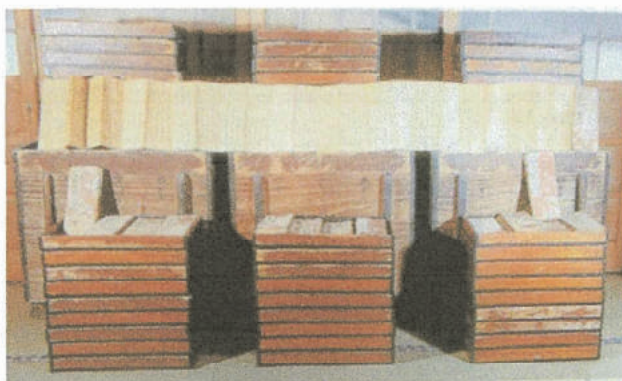
2. 寺の経文瓦と銀杏

阿弥陀寺、一乗院を訪れても寺特有の瓦がある。昔から鬼瓦を使わずに経文を型ちどった経文瓦が使われている。寺を訪れた際は注視しておこう。

どの寺や神社を訪ねても、境内には銀杏の大木がある。阿弥陀寺、毘盧遮那寺、上宮寺、その他多くの寺には必ずある。

銀杏の実を食用としている地方もある、銀杏の葉は昔経文や古文書の防虫剤や、防火対策に利用されていた。

県指定の文化財の毘盧遮那寺の大般若経600巻の間には、銀杏の葉が挿みこんであり、虫食いの防止をしていました。



毘盧遮那寺大般若経



阿弥陀寺の大銀杏

3. 額田の大水害

額田の郷は江戸時代大水害があった。四堰から有賀池を越えて、松原まで浸水した記録がある。小島から北向き地蔵様が流れついたという、南酒出の伝説。本米崎の海後や木崎、戸崎、神崎という地名は正しくは、水際に存在している土地の名である。周辺地区を見渡しても、東海村の亀下、常陸太田市の小島、島、磯部、黒磯と海に関する地名がある。那珂市でも、ナカマチクジラの化石が額田の西で1984年に発見された。「何でと思った」。数億年前は海であったと・・・遠い歴史がある。

4. 早苗饗（さなぶり）

田植えが終わった後、その年の豊作を祝うのと、同時に協力してくれた人々にもてなすこと。

※田植えも、手植えの時代であった。農家の手が足りず、寄り合ってお互いに手伝えした。あぜ道で食べる昼めしは美味しかったそうだ、おかずには、ニシンが定番であった。

田植えが終わるとご苦労を兼ねて、笹竹に早苗をつるし、協力してくれた人々に酒席を設けてもてなした。

5. 水戸の農人形

幕末の水戸藩主徳川斉昭が、民が国家の基であるという意味の「愛民専一」を掲げ、幕政改革を開始した。農民に感謝を込めて、青銅の農人形を作った。朝夕の食事の前に、農人形を食膳に載せ、一箸のご飯を供えたという。

今、手軽にみられる場所として、水戸の弘道館、常磐神社の大鳥居近くに農人形の像があります。

6. 額田神社の山桜

水戸光圀が西山に隠居していたころ、額田八幡宮の別当であった寺の坊さんの住まいの軒端近くに、大きな桜の木があった。春は美しく花が咲くが、葉桜の頃は、屋根に覆いかぶさり庭も暗くなるので困っていた。人に頼んで切ろうとしていたが、村人たちはこれはご神木だから切らないでほしいと頼んだ。また、奥の院に隠居していた別の坊さんも切るのに反対していた。しかし、宮に仕える人の生活に不便ならば、神様も許してくださるだろうと、木を切ることに決めた。

切ることになった前の夜、夢の中に白衣の老人が現れ「我が思うには、桜の木は切り倒をさな方がよい。この木を切れば貴僧は末代まで恨まれるだろう。切ることを思いとどまれば、貴僧は3年ほどの内に大きな寺に移り住むことが出来るであろう」と言った。坊さんは驚いて、木挽に木を切ることを中止させた。村人にも夢の中の出来事を話し、桜の木はそのままにしておいた。それから3年目に坊さんは江戸の大きな寺に住職として転住することになった八幡様が桜の木の命を掬ってくれたと言って、村人は桜の木を大事に大事に育てた。山桜の木は今は額田八幡神社の参道にあり、毎年美しい花を咲かせている。

7.おせがき（お施餓鬼）

おせがきはお盆の頃に行なわれる仏教行事の一つです。釈迦の十大弟子の阿難尊者の説話から始まりました。

餓鬼道に落ちないために三方（仏、法、僧）に供養し無数の餓鬼達に食物をほどこし供養した功德により救われるという教えです。

今では餓鬼だけでなく、祖先代々の精霊を供養するようになり、長生きを願う行事です。

宗派によってはお墓に塔婆を立てて供養します。

8.お盆の迎え

お盆の迎はお墓に目はじき提灯を飾ったり、キュウリの馬やナスの牛を作ったりします。

ご先祖様が馬に乗って帰ってくるが、お帰りはには名残惜しんでゆっくり、牛に乗って帰るという考えです。

お帰りの際に作った馬や牛を里芋の葉に載せて、ご先祖様のご馳走と共に畑の端や山際に供えられましたが、現在は衛生面からなくなりました。



キュウリ馬東向きに飾る



ナスの牛西向きに飾る

9.盆踊り

盆踊りはもともと祖霊のや精霊を慰め、これを死者との世界に再び、浄土に送りの踊りとして始まりましたが、今は子孫やこの世の人たちと楽しく踊って、あの世にお帰りいただく、踊りとなりました。

地域によっては、歌い踊る中で異性を求めあう、今でいう合コンのような場になっているというところもあります。

盆踊りの曲は、河内音頭、八木節、阿波踊り、郡上踊り等など盆踊りとして地域で行われています。



盆踊り



盆踊り

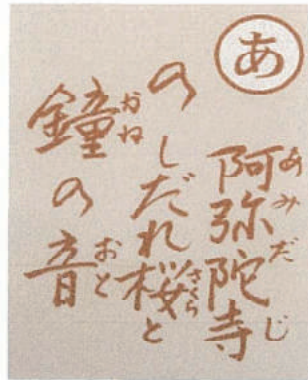
那珂市観光かるた読み札一覧

頭文字地区	テーマ	読み札	頭文字地区	テーマ	読み札
あ (順田)	阿弥陀寺	あみだのしだれ 桜と鐘の音	は (瓜連)	古徳沼	はくちゅう 白鳥も飛来し麗し古徳沼
い (順田)	浄鑑院常福寺	いにしへの向山に浄鑑院常福寺	ひ (野多)	ひまわり 畑	ひまわりの迷路楽しむフェスティバル
う (木崎)	駒形神社	うまの 草毛を奉る駒形神社	ふ (菅谷)	不動院	ふどういん 不動院カヤの大樹に歴史あり
え (順田)	淡島神社	えんむす いも 昔も淡島神社	へ (順田)	鈴木家住宅	べにばな 万姫鈴木御殿で咲くらべ
お (瓜連)	静神社	お静さんと呼ばれる社に歴史あり	ほ (瓜連)	権現塚古墳	ほのぼのと伝説残る権現塚古墳
か (木崎)	ひよつとこ踊り	かどべ 門部には伝統芸能ひよつとこ踊り	ま (菅谷)	古民家曲がり屋	まがり屋の月見の宴に心酔う
き (木崎)	北向き地藏尊	きこうの 願いかななし地藏尊	み (木崎)	久慈川	みづき 水無月の久慈の清流鮎踊る
く (瓜連)	弘願寺	くすぐり 地藏尊民話が残る弘願寺	む (菅谷)	正覚寺	ムクロジの味で名高い正覚寺
け (野多)	県民の森	けんみん 県民の森四季折々の散歩路	め (瓜連)	根本正生誕地	めいじ 明治・大正不屈の政治家根本 正
こ (神崎)	上宮寺	こくほう 国宝の聖徳太子絵伝あり上宮寺	も (菅谷)	那珂のひな祭り	もも 桃の節句腕前競う吊るし雛
さ (瓜連)	常福寺	さんどう 参道の夜店賑わう六夜尊常福寺	や (野多)	藤田家顕彰碑	やす 安らかに藤田幽谷、東湖顕彰碑
し (神崎)	三嶋神社	しい 推の大樹900年 繁る三嶋神社	ゆ (野多)	戸村城跡	ゆうこう 友好の糸を手繰れば戸村城跡
す (野多)	龍昌院	すぎ 過ぎし日の城主を偲ぶ龍昌院	よ (神崎)	発汗地藏尊	よこぼり 横堀の安産・子育て発汗地藏尊
せ (順田)	鱗勝院	せいじやく 静寂な鱗勝院佐竹の家紋に守られて	ら (順田)	額田まつり	らんぶ 乱舞する神輿と山車の額田祭り
そ (野多)	一乗院	そびえ立つ毘沙門天は一乗院	り (瓜連)	斉藤監物	りん 凛として桜田門に名を残す斉藤監物
た (順田)	引接寺	たつあいの 願智が眠る引接寺	る (順田)	毘盧遮那寺	らいだい 累代の民守る毘盧遮那寺大般若経
ち (瓜連)	清水洞の上公園	ちいき 地域の 絆 四季の散歩道清水洞の上公園	れ (瓜連)	瓜連城跡	れきし 歴史に残る南北朝興亡瓜連城跡
つ (木崎)	蒼龍寺	つる 鶴の一声千波から曳かれた蒼龍寺	ろ (木崎)	白河内古墳群	ろまん 漂う水鳥の白河内古墳群
て (菅谷)	菅谷鹿島神社	でんとうはこ 伝統誇る菅谷鹿島神社大助まつり	わ (野多)	鷺神社	わんじん 鷺神社大鳥伝説西の市
と (野多)	文殊院	とむらち 戸村文殊院世の人々に親しまれ	ん (菅谷)	七蓮汁	ん (運) 七味も美味しい汁の極
な (野多)	歴史民俗資料館	な 那珂市歴史一目でわかる民俗資料館	な (菅谷)	ナカマロちゃん	ナカマロちゃん那珂市のシンボルひまわり大使
に (瓜連)	静峰ふるさと公園	にほん 日本 桜 百選 静峰ふるさと公園八重桜	は (瓜連)	静の桜の木	はちまん 八幡太郎家伝説残る静の桜の木
ぬ (順田)	額田城跡	ぬかだ 額田城跡歴史を刻む散歩道	ら (順田)	額田神社	らんまん 爛漫と参道に山桜額田神社
ね (野多)	熱帯植物館	ねつたい 熱帯植物四季観察できる学習館			
の (順田)	額田の郷大樹	のんびりと額田の郷の大樹めぐり			

観光資源・自然・歴史・伝統・文化財大切に



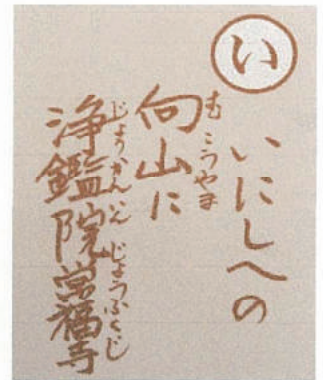
あ



あ



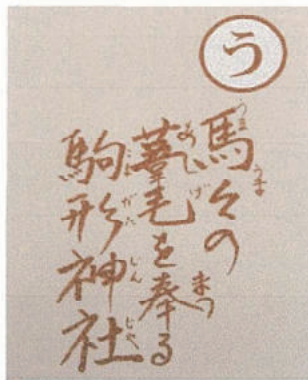
い



い



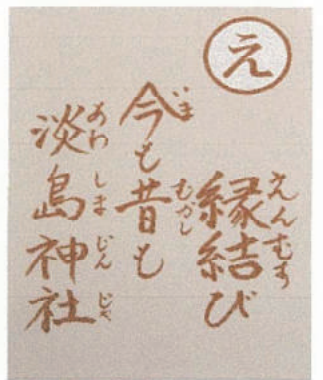
う



う



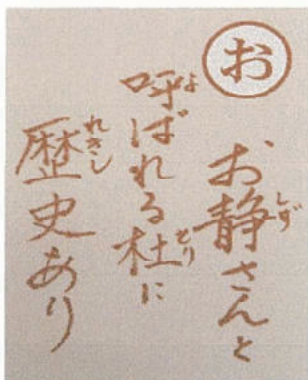
え



え



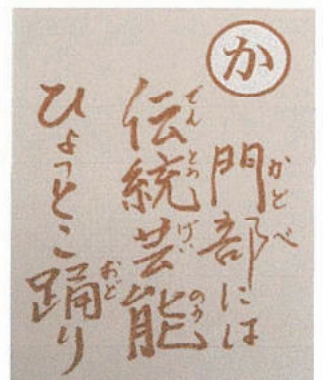
お



お



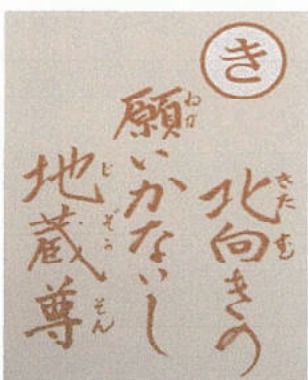
か



か



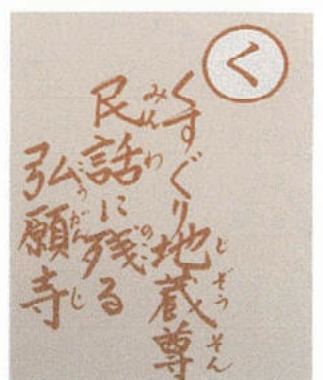
き



き



く



く



け 泉民の森
四季折々の
散策路



こ 国宝の
聖徳太子絵伝
上宮寺



さ 参道の
夜店賑わう
常福寺



し 榎の大樹
九百年の
三嶋神社



す 過ぎし日の
城主をしのぶ
龍昌院



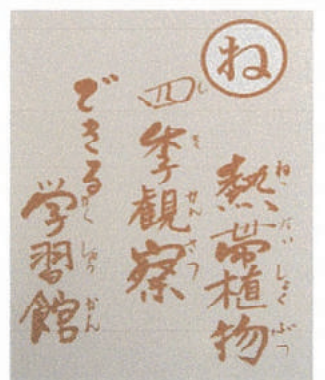
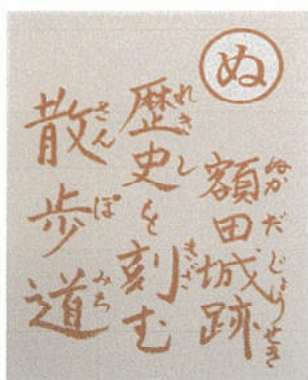
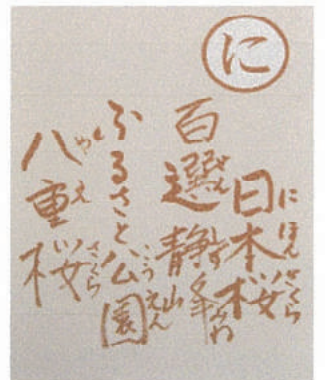
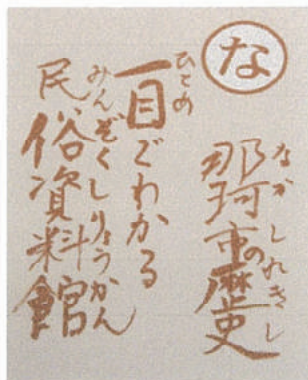
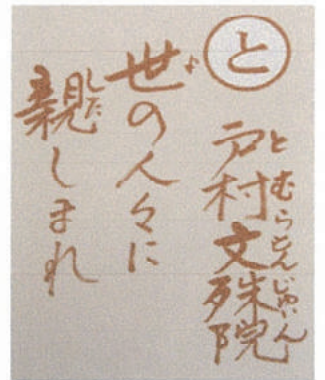
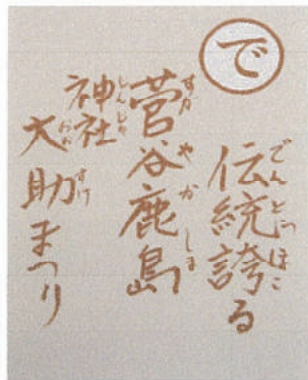
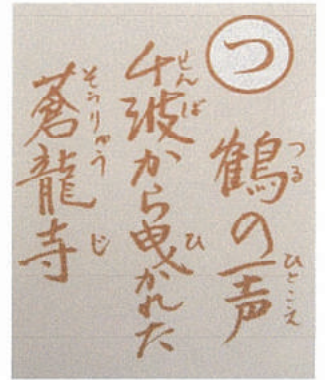
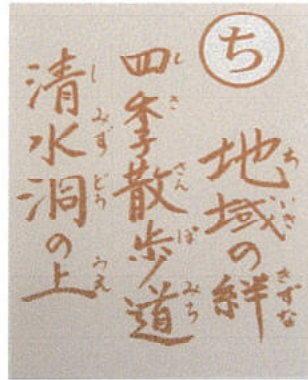
せ 静寂な
鱗形院
佐々木の家紋に
守られて



そ 聳え立つ
毘沙門天は
一乗院



た 夕つきの
頓智が眠る
引接寺





の のんびりと
額田の郷の
大樹めぐり



は 白鳥も
俄来し麗し
古徳沼



ひ ひまわりの
迷路楽しむ
フスチバル



ふ 不動院
カマの大樹に
歴史あり



へ 紅花と
万姫鈴木
御殿を咲くらべ



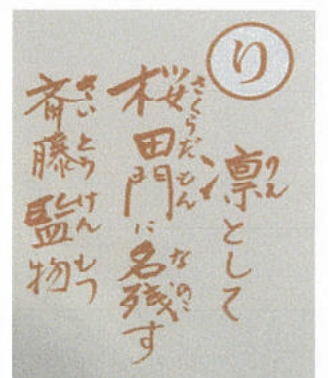
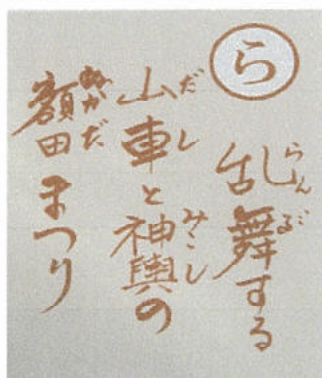
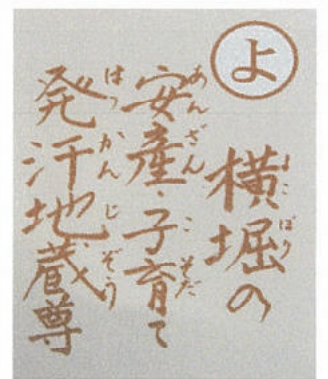
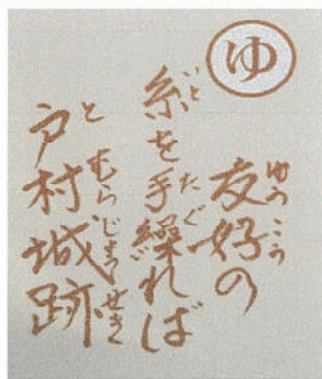
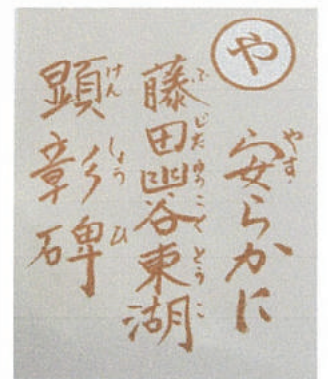
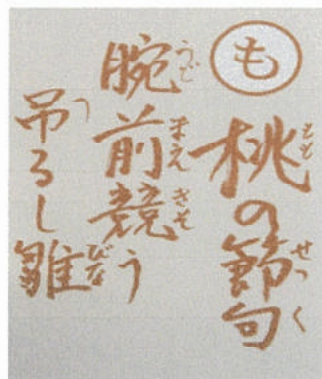
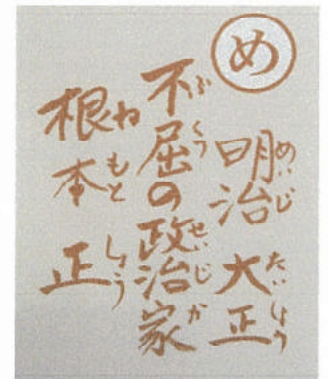
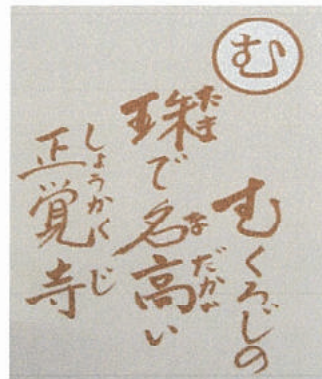
ほ ほのぼのと
伝説残る
権現塚古墳

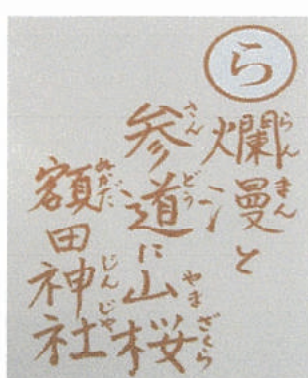
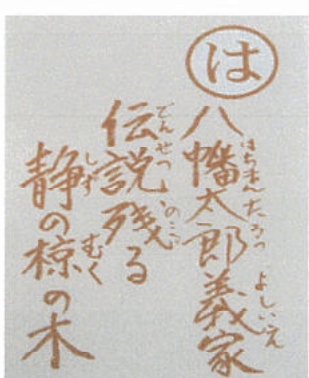
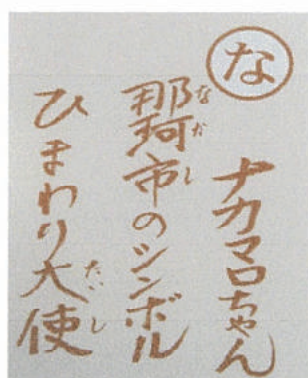
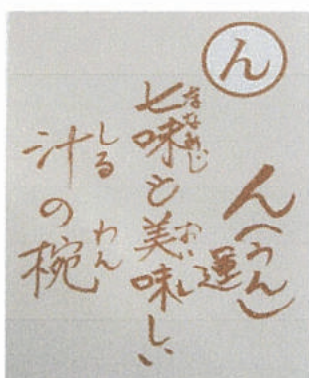
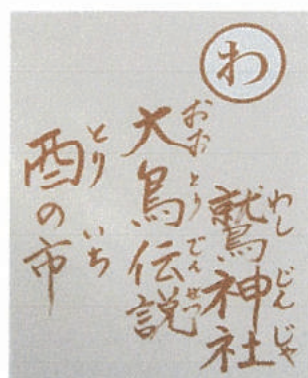
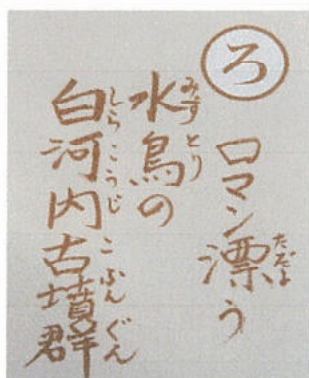
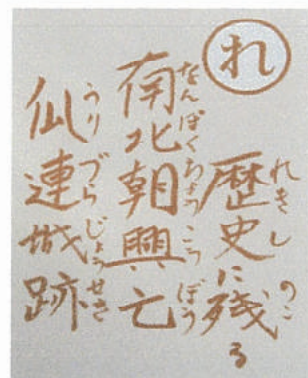
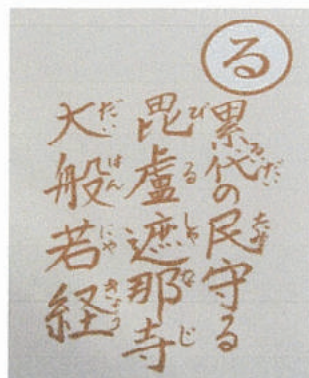


ま 曲がり屋の
月見の宴に
心酔う



み 水無月の
久慈の清流
踊る鮎





(8) 編集を終えて

「那珂市史」「常陸太田市史」「水戸市史」を読み、編集に携った先人のご苦労に頭が下がる。水戸藩の先人である学者の素晴らしさ、地方の若者を育てようという熱意が伝わってくる。額田の郷は江戸時代50を超える寺が存在したこと。吉田松陰が立ち寄ったという浄鑑院常福寺跡。そして日本の歴史を支えた水戸学の素晴らしさ。和算や柔術大家を輩出したこと等、先人の偉業は数知れない。

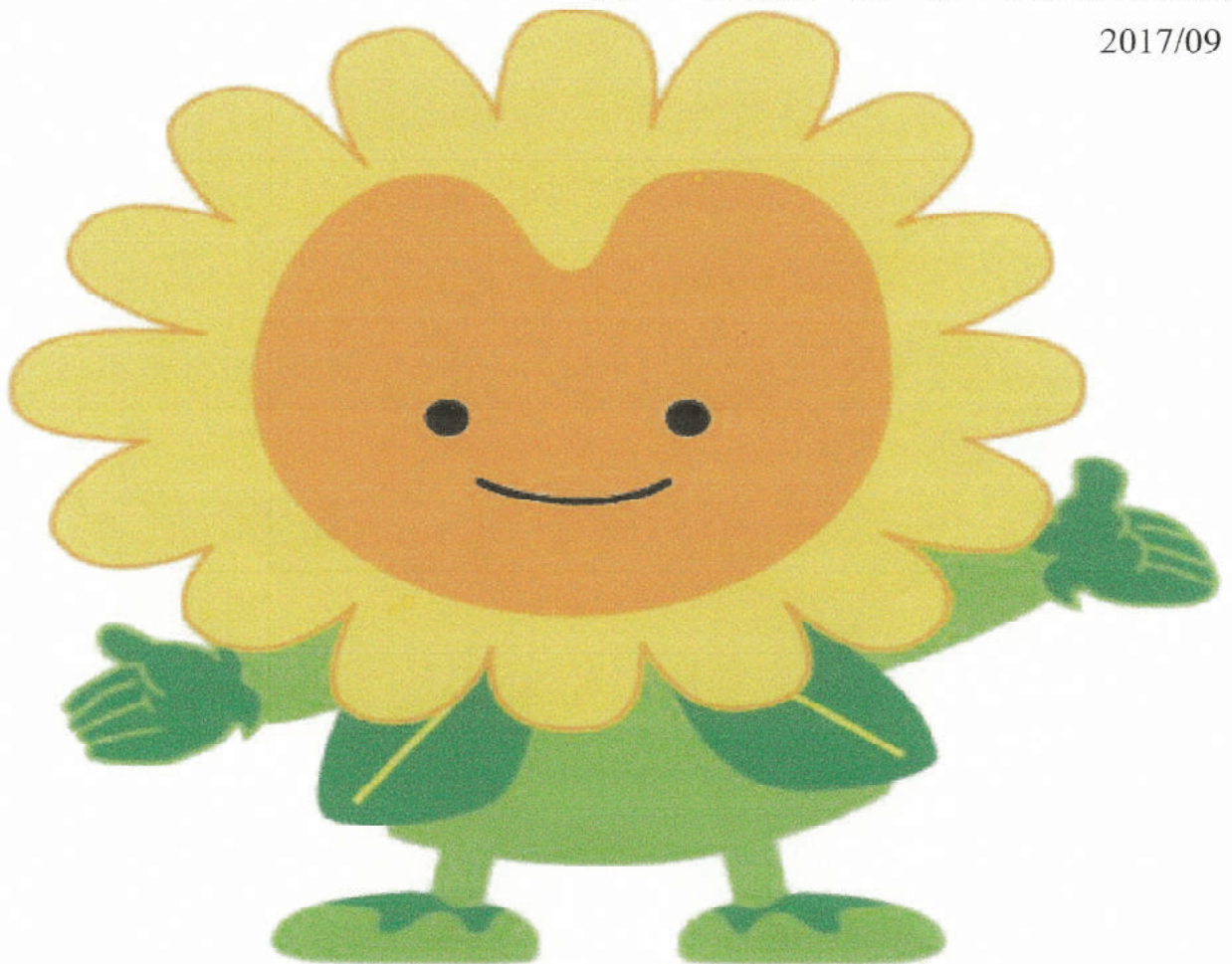
観光ボランティアガイドマニュアルは、後継者の育成を狙いとして作成しました。時間があれば近代史まで手を付けていくことを宿題にしたい。

小田部一彦

参考資料「那珂市史」「常陸太田市史」「水戸市史」「季節の風俗」
「那珂市の民話」「茨城新聞」

編集・発行・ボランティアガイド那珂
担当・小田部一彦・☎・090-2412-8305

2017/09



ひまわり大使
ナカマロちゃん

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.